


「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 27 年 7 月 31 日	
所属部局・職	野生動物研究センター・修士課程学生
氏名	水越楓

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)	
北海道 羅臼町	
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)	
北海道沿岸に來遊するシャチの音響研究	
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)	
平成 27 年 6 月 24 日 ~ 7 月 1 日 (計 8 日間)	
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)	
北海道シャチ研究大学連合	
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)	
写真 (必ず 1 枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの) の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。	
概要 調査地：北海道・羅臼沖 日程：6/24~7/1 6日間乗船予定であった 26日のみ欠航であり、結果として5日間出航することが出来た。	
内容 計3出航にてシャチを発見、計4群(個体の重複を含む)を観察することが出来た。水中マイクによる録音は5月分と合計して約38時間であった。 今回の調査から行動の詳細な観察記録を取ることを開始し、5月分と合計して総行動観察時間は39時間以上にのぼった。 現在音データ、行動データともに解析中である。昨年度までと比較すると、鳴音を発している時間が長く、より社会行動を行っている印象を受けた。昨年度まで稀であったテイルスラップ(尾びれを水面に叩き付ける行動)やスパイホップ(頭を水面から出す偵察行動)などの空中行動が多く見られた。また、視界範囲内に一頭のみという稀な状況も観察された。	
今後の予定 今後はこのデータを基に、鳴音(特にコールとホイッスル)と行動状態の関係を分析する。 7月後半にチーム内での会議があるため、それに向けての報告準備や行動記録方法についてのまとめを行っていく予定である。	
	写真：シマフクロウ (行動記録をとっていたため、シャチの写真無し)
6. その他 (特記事項など)	